

管内の住宅用火災警報器設置による奏功事例一覧（35事例）

平成29年1月31日現在

【原因一覧】

・ガスコンロの使用放置	22件
・タバコの不始末	4件
・ストーブ	2件
・電気関係	2件
・放火	1件
・アロマキャンドル	1件
・不明	2件
・化学反応	1件

【焼損程度】

・全焼	1件
・部分焼	8件
・ぼや	11件
・火災に至らず	15件

【事例1】 早期の発見により、壁の一部等の焼損で済んだ事例

平成20年3月発生 原因・・・ガスコンロの使用放置

台所でフライパンを使用して料理中、ガスコンロを点火の状態、洗濯物を取り込んでいる時に、住警器の警報音でフライパンからの出火に気が付き、消火、119番通報したものの。

【事例2】 早期の発見により、外壁の一部等の焼損で済み、延焼拡大が免れた事例

平成20年11月発生 原因・・・ガスコンロの消し忘れ

厨房で使用していたコンロを消したと思いこみ、別の部屋で食事中に「ピーピー」という警報音で、コンロのことに気付いて厨房に行き、コンロ付近が燃えているのを発見、消火したものの。

【事例3】 早期の発見により、外壁の一部のみの焼損で済み、就寝中の子供の避難が成功した事例

平成20年12月発生 原因・・・電気ストーブの輻射熱

台所で洗物中に、階段に設置の住警器が鳴動したので、2階へ上がると、濃煙と熱気に包まれており、就寝中の子供を避難させ、消火したものの。

【事例4】 早期の発見により、台所の床と壁の一部だけの焼損で済んだ事例

平成21年6月発生 原因・・・タバコの不始末

留守中の住宅から「ピーピー」という警報音を隣人が聞いて、煙を発見、近くの事業所員等と協力し、初期消火と119番通報したものの。

【事例5】 早期の発見により、コンロ上の鍋の内容物のみが焦げただけで、火災に至らなかった事例

平成21年10月発生 原因・・・ガスコンロの消し忘れ

住宅から「ピーピー」という警報音がでているのを隣人が聞いて、軒下より煙がでているのを発見して、火災を知らせようとしたが留守だったため、119番通報したものの。

【事例6】 早期の発見により、床の一部だけの焼損で済んだ事例

平成21年12月発生 原因・・・タバコの不始末

留守中の住宅から「ピーピー」という警報音を、隣接共同住宅の隣人が気付く、119番通報し、到着した消防隊が消火したものの。

【事例 7】 早期の発見により、火災に至らなかった事例

平成 22 年 2 月発生 原因・・・ガスコンロの使用放置

留守中の住宅から「ピーピー」という警報音を隣人が気付き、軒下より白煙を発見、未施錠の窓から屋内に入りコンロの火を消し、119番通報したものの。

【事例 8】 早期の発見により、火災に至らなかった事例

平成 22 年 2 月発生 原因・・・ガスコンロの消し忘れ

留守中の住宅で住警器が作動した際の警報音が警備会社に移報されて、駆けつけた警備員がコンロの火を消し止めたもの。

【事例 9】 早期の覚知により、出火した階の一部のみの焼損で済んだ事例

平成 22 年 4 月発生 原因・・・電気関係のショート

3階建て店舗兼住宅の3階で発報した警報音を2階住居部分にいた住人が気付き、迅速な避難及び119番通報をしたもの。

【事例 10】 早期の発見により、出火した部屋のみ焼損で済んだ事例

平成 22 年 5 月発生 原因・・・放火

1階にいた両親が、2階からの警報音に気付き消火器を使用して消火したものの。

【事例 11】 早期の覚知により、全焼火災住宅から全員が避難できた事例

平成 22 年 6 月発生 原因・・・不明

1階に高齢者、2階に他の居住者が就寝中、警報音で火災に気付いて避難及び1階で就寝中の高齢者を救出したもの。住宅は全焼したが住宅用火災警報器の設置の目的である「死傷者の抑止」に効果のあった事例である。

【事例 12】 早期の発見により、火災に至らなかった事例

平成 22 年 9 月発生 原因・・・ガスコンロの消し忘れ

住人が、ガスコンロで料理中に点火したまま外出してしまい、帰宅した際に建物から白煙及び「ピーピー」という警報音に気付き、屋内に入りコンロの火を消し止めたもの。

【事例 13】 早期の発見により、火災に至らなかった事例

平成 23 年 1 月発生 原因・・・ガスコンロの使用放置

住人が、ガスコンロで料理中に点火したままで出掛けてしまい、作動した住警器の感知信号が警備会社に移報され、警備会社が119番通報して駆けつけた警備会社職員及び消防隊によってコンロの火を止めたもの。

【事例 14】 早期の発見により、火災に至らなかった事例

平成 23 年 2 月発生 原因・・・ガスコンロの消し忘れ

隣人が「ピーピー」という警報音を聞きつけ、建物に入り台所のガスコンロの火を止めたもの。警報音が鳴っていた住宅に住人は在宅していたが、コンロで料理中に火を消し忘れていて、住人が聴覚不自由なために警報音が聞こえなかったもので、鍋の内容物のみが焦げただけで火災に至らなかった事例である。

【事例15】 早期の発見により、火災に至らなかった事例

平成23年3月発生 原因・・・ガスコンロの使用放置

住宅から「ピーピー」という警報音が出ているのを、付近を通りかかった人が気づき近隣の事業所に駆け込み119番通報をして、事業所の社員が住宅に入ろうとしたが不在で施錠されていたのでLPGボンベの元栓を閉めたもの、消防隊が駆けつけた際には火は消えており、鍋の内容物のみが焦げただけで火災に至らなかった事例である。

【事例16】 早期の発見により、台所の一部の焼損だけで済んだ事例

平成23年5月発生 原因・・・ガスコンロの使用放置

住人が自宅寝室で就寝中、寝室に設置してある住宅用火災警報器の警報音で目を覚まし、台所に向うとガスコンロ付近から天井にかけて燃えていたため、すぐにバケツ・水道用ホースを使用し消火した事例である。

【事例17】 早期の発見により、居室の一部の焼損だけで済んだ事例

平成23年5月発生 原因・・・石油ストーブに何らかの物質が接触

住人がトイレに入った際、台所に設置してある住宅用火災警報器の警報音を聞きトイレから出たら煙をみて火災だと思い茶の間に向うと、ストーブ付近から炎が立ち上がっていたため、すぐに濡れタオル等を使用し消火した事例である。

【事例18】 早期の発見により、火災に至らなかった事例

平成24年1月発生 原因・・・ガスコンロの使用放置

付近で作業中の人から住宅からの窓から煙が出ているのを発見し、さらに「ピーピー」という警報音も聞こえたので火災と思い119番通報。消防隊が駆けつけ、コンロの火を消した。鍋の内容物が焦げただけで、火災に至らなかった事例である。

【事例19】 早期の発見により、厨房の一部の焼損だけで済んだ事例

平成24年2月発生 原因・・・ガスコンロの使用放置

住人がガスコンロを点けたままその場を離れてしまい、2階にいた住人が住警器の「火事です」という音声と煙で気付いたもの。別の家族が衣服を浴槽に浸し鍋に被せて消火。さらに粉末消火器を使用し、完全消火した。

【事例20】 早期の発見により、火災に至らなかった事例

平成24年8月発生 原因・・・魚焼き器の使用放置

隣人が警報音及び換気扇からの煙を発見し119番通報を行い、自宅内にいた住人に知らせたもの。内容物が焦げただけで火災に至らなかった事例である。

【事例21】 早期の発見により、火災に至らなかった事例

平成24年8月発生 原因・・・ガスコンロの使用放置

台所ガスコンロでゆで卵を作ろうとコンロに鍋をのせたが、コンロではなくグリル(魚焼き器)に点火しそのまま放置した。

台所の警報器が鳴動したが、住人は何の音かわからなかった。外を通りかかった付近住民が警報音と煙に気づきグリルのスイッチを切ったもの。

【事例 2 2】 早期の発見により、リビングの一部の焼損だけで済んだ事例

平成 2 4 年 1 2 月発生 原因・・・アロマキャンドルの消し忘れ

住人がアロマキャンドルに点火したまま外出してしまい、隣人が焦げ臭いにおいと「ピーピー」という警報音で気づき 110 番通報し、駆けつけた警察官が水道水で消火したものの。

【事例 2 3】 早期の発見により、居室の収容物（布団）のみの焼損だけで済んだ事例

平成 25 年 1 月発生 原因・・・タバコの不始末

隣人が「ピーピー火事です」という警報音が聞こえたため、外に出たところ建物から若干の煙を発見し、大家へ知らせた。駆けつけた大家が水バケツにて消火したものの。

【事例 2 4】 早期の発見により、トイレ内の収容物と内壁一部の焼損だけで済んだ事例

平成 25 年 4 月発生 原因・・・化学反応

住人が「ピーピー」という警報音を自宅内で聞きつけ、自宅内を確認したところ、トイレから煙が出ているのを発見し、燃焼物を濡れタオルにて消火したものの。

【事例 2 5】 早期の発見により、居間のこたつ布団とこたつカバーの焼損だけで済んだ事例

平成 2 6 年 2 月発生 原因・・・タバコの不始末

住人が「ピーピー」という警報音を自宅トイレ内で聞きつけ、居間のこたつ布団から煙が出ているのを発見し、燃焼物をペットボトルの水にて消火したものの。

【事例 2 6】 早期の発見により、鍋の内容物のみが焦げただけで済んだ事例

平成 2 6 年 6 月発生 原因・・・ガスコンロの使用放置

天ぷら鍋に火を点けたまま来客対応をし、5～6 分ほど経過した頃、1 階台所部分に設置していた住宅用火災警報器（熱式）が作動したものの。居間に居た娘から天ぷら鍋が燃えていると言われ、台所にあった野菜を天ぷら鍋に投入したところ、たまたま消火に成功した。

※なお、消防本部では野菜による初期消火は推奨しておりません。

【事例 2 7】 早期の発見により、グリル排気部分が少し燃えただけで済んだ事例

平成 2 6 年 8 月発生 原因・・・ガスコンロの使用放置

住人の女性が居間でテレビを見ていた際に、台所に設置してある住宅用火災警報器の警報音を聞き、確認に向かったところ、ガスコンロのグリル排気部分が少し燃えていたため、すぐにコップの水にて消火したものの。

【事例 2 8】 早期の発見により、火災に至らなかった事例

平成 2 6 年 1 2 月発生 原因・・・ガスコンロの使用放置

付近で塗装作業をしていた作業員が、建物内で鳴動している警報音に気づき、さらに煙が出ているのを発見したため、119 番通報した。

当時、家人は不在であり、消防隊が無施錠だった玄関から進入し、ガスコンロの火を止めたものの。

家人が、ガスコンロを使用したまま外出（20 分程度）したため、鍋から立ち上がった煙を、台所に設置されていた住宅用火災警報器（煙式）が感知し作動したものの。

【事例 29】 早期の発見により、居室の一部等の焼損で済んだ事例

平成 27 年 2 月発生 原因・・・ガスコンロの使用放置

店舗にいた店員が「ピーピー」という音を店舗内で聞き、厨房のドアを開けたところ、こんろ上のでんぷらなべから天井付近まで炎が立ち上がり、換気扇が燃えているのを発見、てんぷらなべに衣服を覆いかぶせ消火し、換気扇の炎を器に汲んだ水道水にて消火したもの。

なお、この火災で当該建物の台所天井に設置された住宅用火災警報器（煙式）が作動したものと判明。

【事例 30】 早期の発見により、居室の一部等の焼損で済んだ事例

平成 27 年 9 月発生 原因・・・コンセントからの出火

就寝中に警報音で目を覚ました住人が、飼育用水槽付近から煙が出ているのに気づき、台所の水道水で消火したもの。

【事例 31】 早期の発見により、居室の一部等の焼損で済んだ事例

平成 27 年 9 月発生 原因・・・不明

警報音に気付いた住人が、家族へ火災を知らせ 119 番通報し、その後家族が水道ホースにて消火したもの。

【事例 32】 早期の発見により、火災に至らなかった事例

平成 27 年 9 月発生 原因・・・ガスコンロの使用放置

住人がガスコンロに鍋をかけて外出し、警報音に気付いた隣人が 119 番通報し、ガスコンロの火を消したもの。

【事例 33】 早期の発見により、居室の一部等の焼損で済んだ事例

平成 28 年 2 月発生 原因・・・ガスコンロの使用放置

警報音に気付いた住人が台所を確認すると、ガスコンロ上の鍋から炎が上がっているのを発見し、水道水にて消火したもの。

【事例 34】 早期の発見により、火災に至らなかった事例

平成 28 年 6 月発生 原因・・・ガスコンロの使用放置

居住者がガスコンロに鍋をかけ点火したまま外出したため、警備会社で設置した火災警報器が感知し、警備会社より当消防本部へ通報された事案。

出動した消防隊によりガス供給を遮断し、火災に至らなかったもの。

【事例 35】 早期の発見により、火災に至らなかった事例

平成 29 年 1 月発生 原因・・・ガスコンロの使用放置

居住者がガスコンロに鍋をかけ点火したまま放置したため、警備会社で設置した火災警報器が感知し、警備会社より当消防本部へ通報された事案。火災に至らなかったもの。